

2:17 もし、あなたが自分をユダヤ人ととなえ、律法を持つことに安んじ、神を誇り、  
2:18 みこころを知り、なすべきことが何であるかを律法に教えられてわきまえ、  
2:19 また、知識と真理の具体的な形として律法を持っているため、盲人の案内人、やみの中にいる者の光、愚かな者の導き手、幼子の教師だと自任しているのなら、  
2:20 前節に合節  
2:21 どうして、人を教えながら、自分自身を教えないのですか。盗むなど説きながら、自分は盗むのですか。  
2:22 姦淫するなど言いながら、自分は姦淫するのですか。偶像を忌みきらいながら、自分は神殿の物をかすめるのですか。  
2:23 律法を誇りとしているあなたが、どうして律法に違反して、神を侮めるのですか。  
2:24 これは、「神の名は、あなたがたのゆえに、異邦人の中でだけがされている。」と書いてあるとおりです。  
2:25 もし律法を守るなら、割礼には価値があります。しかし、もしあなたが律法にそむいているなら、あなたの割礼は、無割礼になったのです。  
2:26 もし割礼を受けていない人が律法の規定を守るなら、割礼を受けていなくても、割礼を受けている者とみなされなideしょうか。  
2:27 また、からだに割礼を受けていないで律法を守る者が、律法の文字と割礼がありながら律法にそむいているあなたを、さばくことにならないでしょうか。  
2:28 外見上のユダヤ人がユダヤ人なのではなく、外見上のからだの割礼が割礼なのではあ

りません。

2:29 かえって人目に隠れたユダヤ人がユダヤ人であり、文字ではなく、御霊による、心の割礼こそ割礼です。その誉れは、人からではなく、神から来るものです。

ユダヤ人は神の民だから、他の民族のようには汚れていないと信じ込まれていました。しかしパウロはそれであったも、罪は罪なのだ指摘します。

すなわち彼らは信仰があるからと安心して、罪を犯しても何も感じなくなっていたのです。「盗み」「姦淫」「違反」などです。信仰は外見や立場ではありません。年数でもありません。

私たちも救われているということに安心して、神様に従わないなら、ここに警告されているユダヤ人と同じになってしまいます。

心の内に、そして個人的な行いに、自分自身の信仰が表れているか、よく吟味しましょう。必要があれば、謙遜に足りなさや間違いを認めて、聖霊によって自分を変えていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

